

平成27年度 事業計画書

平成27年4月 1日から

平成28年3月31日まで

公益財団法人天田財団

理事長 織田 直樹

I 財団運営の概要

ダイナミックに変化する経済情勢を背景に、グローバル企業における製造拠点がめまぐるしく移動することは、当たり前の中になりました。このような製造環境下において、我が国が引き続き世界で主導的な役割を維持して行くためには、製造関連技術から先端科学技術まで、広範囲の研究開発が強く望まれるところです。

また、急速な市場経済の拡大に伴い、化石燃料をはじめとする地球資源に限りがあることがより一層顕在化し、代替資源や代替エネルギーの開発が喫緊の課題となっています。その結果、ものづくり、物流、サービス産業などあらゆる分野で、かつ国を越えて新技術の研究開発が行われ、その開発速度の速さには目を見張るものがあります。

このような背景の中、当財団は金属等の加工に係る優れた基礎技術の研究活動への助成を通じて科学技術の振興を促し、我が国の産業および経済の健全な発展に寄与することを目的に活動を推進いたします。事業の内容については、下記に示す通りです。

II 事業の内容

1. 金属等の塑性を利用した加工及び高密度エネルギー下での諸特性を利用した加工に関する調査・研究に係る助成事業

(1) 研究開発に係る研究開発助成事業

国内の大学・大学院・高専、並びにこれに準ずる研究機関で行なわれる研究開発の内、当財団の対象とする各技術に関する研究開発及び調査を行なう研究者に対し助成金を支給する。

平成27年度は助成件数 47件、助成金額 16,200万円を計画している。

(2) 研究開発に係る奨励研究助成事業

対象は前記(1)と同じで、先駆的研究を奨励するため、萌芽的な研究を行なう研究者に助成金を支給する。

平成27年度は助成件数 6件、助成金額 600万円を計画している。

2. 金属等の塑性を利用した加工及び高密度エネルギー下での諸特性を利用した加工に関する研究に係る国際交流の促進及びその助成事業

(1) 国際会議等開催準備に係る助成事業

前述の対象領域における国際会議、国際的な研究集会等の開催準備に対して、関連機関代表者に助成金を支給する。

平成27年度は助成件数 5件、助成金額 150万円を計画している。

(2) 国際会議等への参加に係る助成事業

前述の対象領域における国際会議、国際的な研究集会等へ参加する研究者個人に助成金を支給する。

平成27年度は、前期・後期合計で助成件数 18件、助成金額 1,080万円を計画している。

(3) 外国人技術者の養成に係る助成事業

前述の対象領域における外国人技術者の養成にたずさわる研究指導者を援助するため、助成金を支給する。

平成27年度は助成件数 2件、助成金額 30万円を計画している。

(4) インターネットを活用した国際交流への助成事業

国内外の研究者との技術交流を目的としたインターネット上でのポスターセッション等の開設や維持運営を行なう学協会に助成金を支給する。

平成27年度は、1件 助成金額 25万円を計画している。

3. 金属等の塑性を利用した加工及び高密度エネルギー下での諸特性を利用した加工に関する研究等成果の普及啓発事業

(1) 成果報告書の配布事業

研究開発助成事業、並びに国際交流促進事業によって得られた成果を、年度毎の報告書「天田財団助成研究成果報告書」として国内研究機関等に約850冊配布し、普及啓発を行なう。

(2) 機関誌（特集号）の配布事業

毎年度特集テーマを設定し、過去の成果報告の中から特集テーマに相応しく、かつ技術の向上と発展に効果が大きいと判断される研究を選考して、その研究者に改めて執筆いただいた論文を、機関誌「Form Tech Review」として配布している。

平成27年度は執筆者 11名ほど、950冊の製作を計画している。

(3) 助成研究成果発表会の開催事業

助成研究成果発表会を日本塑性加工学会の春季講演会に併設し、機関誌「Form Tech Review」掲載の研究成果の中から5テーマの講演を行ない、発表者にインセンティブを与える。

平成27年度は「せん断のメカニズムと板材・棒材の最新加工技術」をテーマに発表会と産業界の方も交えたパネルディスカッションを行なう。

(4) 出捐者生誕百年を記念した出版物の制作並びに記念式典の開催

天田勇生誕百年を記念し、天田財団の歴史と助成研究成果をまとめた記念誌の制作並びに記念式典を計画している。

以上